

家畜保健衛生だより

令和3年度 第7号

牛ウイルス性下痢（BVD）の対策をしましょう

牛ウイルス性下痢(旧名:牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD))は BVD ウイルスの感染により、発熱、下痢、呼吸器症状等を引き起こす疾病です。一般的に軽症で済むことが多いですが、致死的な粘膜病を発症することもあります。また、妊娠牛が感染すると異常産や持続感染牛(PI牛)も原因となります。ここでもう一度知識を再確認し、牛ウイルス性下痢からあなたの牛群を守りましょう。

【発生状況】農林水産省の統計より

| 年 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 戸数 | 118 | 120 | 136 | 158 | 222 | 221 | 230 | 207 |
| 頭数 | 189 | 228 | 260 | 310 | 406 | 380 | 382 | 359 |

全国的に増加傾向にあると言えます。

【持続感染牛(PI牛)について】

妊娠牛(胎齢約 18~125 日)が感染すると、その胎子は PI 牛として生まれることがあります。PI牛は生涯にわたってウイルスを保持し、鼻汁、糞尿、乳汁などにウイルスを排出し続けます。一見健康に見える場合でもウイルスを排泄しており、感染源となります。

対策のポイント

- 導入牛(妊娠牛の場合はその子牛も)については、導入時検査や隔離を行いましょう。
- PI牛摘発のための検査を実施しましょう。導入牛、新生子牛、本病の疑いがある牛を優先して実施しましょう。
- PI牛に対する効果的な治療法はありません。早期に発見し、自主的に淘汰することが重要です。
- ワクチンを接種しましょう。ワクチンの種類や接種対象についてはかかりつけの診療獣医師、または家畜保健衛生所にご相談ください。

ご不明な点や検査については家畜保健衛生所までお問合せ下さい。

神奈川県県央家畜保健衛生所

本所 〒243-0417 海老名市本郷3658
電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124
東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076
電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432

県央家保ホームページ



